

三好園創設者を偲ぶ

中塚 栄次郎

輝しい将来を待望しつつ前進するのは我等の義務である。過去を顧みてそれを探求し、それを認識し而してそれを感謝するのもまた我等の義務である。更に故人の善行を顕彰しその貴い思想と豊かな経験とを後代に伝うるのは我等の義務である。今回財団法人三好園五十周年誌を編纂し、それを上梓して世の清鑒を竣つのは、深い意義がそこに潜んでいる。誠に近来の欣快事として慶賀する。

蓼沼大人の知遇を得た

半世紀と二十二年の昔、私は岩崎小学校の代用教員となったのである。その春のある日岩崎船越両校教職員の茶話会を催し、その午後を楽しみつつありしに、蓼沼大人は附近の文化人を伴うて臨席した。その文化人は西洋文明を説き、五倫の教、何ものぞと気焰万丈であった。私は極めて低姿勢で御説の如くとすれば、我が教育の根本義は崩壊されると、事例を挙げて教示を求めた時、望月校長も私と意見を同うした。翌々日大人は学校に現はれ、私を蓼沼家に誘うて、私の非礼を咎めず、却て文化人が私の意気を激賞したとかで、其の晩は離れ座敷に大人と共に眠に就いたその節、私は一身上について問はるるままに次の如く答うたと記憶する。

私は山形の小学校を卒業後、赤見の漢学塾に通ひ、転じて犬伏の英語学校に学んだが、廃校となったので、帰村した時この近くの鈴木先生が岩崎小学校の代用教員に推薦した。俸給全部貯蓄、養鶏もしているから再来年は東京で勉学する所存である。

恩人蓼沼の激励と上京及び渡米

蓼沼大人は田沼の帰りだとか、散歩の序でだからとステッキをふりつつ学校に立ち寄り、その帰りには必ず私を蓼沼家に伴うた。来往すること益々滋くして尊敬するの念愈々高まりました。或る夜、突如として「君が上京して相当の学校に入学すれば、学資を出してやる」と語りました。私には天来の福音であったので、即座に「私には麻布に親戚があつて、下宿代は不用だから少しの貯金と養鶏を処分した金で二ヶ年位はやれるから、それでは再来年を待たず来年（明治二十三年）の暮れに岩崎小学校を辞めて上京することにいたします。」と感謝したのである。

明治二十四年の春、親戚に近くの六本木の英語の塾で、逋信省の村田武一郎技師に親しくなると、技師はアメリカに行き、私にも渡米をすすめたので、蓼沼大人の同意を求め、船賃を恩借し、二十五年の夏、渡米、千八百九十六年近代オリンピックが創始された時サンフランシスコ・ポリテクニック・ハイスクールを卒業。英和学校の校長に任ぜられ、生徒の中に半ズボンの松岡洋右（のちの外務大臣）星一（星製菓の社長）なども居た。傍らデパートメント・ストアの東洋部を担当したこともある。大学を卒業、歐洲諸国を歴訪して明治四十年十二月帰朝し早速恩借を返金せんとしたが、それには手も触れず、亡父と連名の借用証書を返戻されたのである。

仏けの文吉

コンコードの哲人の言に人は善くとも悪しくともその母が作りたるものである。大人は背たけ高く、修養深く、常識は円満に発達して、温容は仰ぐべく親しむべく真に長者の風格の持主でありました。孝心深くして毎朝神々を礼拝し、老母の機嫌を伺う真摯の態度の神々しさ、麗はしきは今でも私の胸に刻まれている。大人は常に人に語った「私が善事をなしたとすれば、現在なしつつありとすれば、尚ほ将来になし得るとすれば皆悉く老母の教訓の賜である」と。

智恵子刀自は居常、富める者の義務は出来るだけ質素の生活を営むべきことであると人に語った。時々ユーモアまじりで人を論じた。例せば物資を大切に話す話には「私は釣瓶を落した時、思案に餘つて実家につっぱしるべと思つた」とか無駄使をせぬ話には「私は林檎の缶をきいたら高いので食べなかつた」とか、つぎはぎの前掛で自分のことはきりつめて人には厚うし、疲れた者には憩を、薄幸の者には慰藉の言葉を以て物を以て恵み、忙しい時を割いて、家康の遺訓や自詠の俳句などを浄書して人に頒つのを楽しみとしていた。

其の頃貸借の裁判沙汰などが多いにも拘らず如何なる場合にも訴訟を起こさず、ほとけの大吉で知られて居つた。ギリシヤの神話の筆法を以てすれば、蓼沼家の庭内には甘露の泉があつて真善美の清らかな水が滾々として流れて尽きなかつたのである。

貴い慈善袋

人類は連鎖の如く、若し恵まれない人、不満の人があれば、鎖の輪の弱いものと同じく健全な社会と呼び得ない。そして大人は常に慈善袋を携帯して、田沼からの帰りに人力車を雇はない時は慈善袋に、節約した小使は慈善袋に。部屋住みの時でも小使を割いて学生の面倒を見た。

野上の前原勘七郎氏（後の原田）を県下青年幾万の羨望のまどである高等商業学校に学ばせたのを始めとし、その慈善袋、その小使銭の恵みに浴した者は決して少くない。

如何にして郷土に不幸不満の人を一人でも少くすべきか、その考を実行に移すべく信仰を異にするキリスト教や救世軍を始めとして、各方面に就いて涙ぐましい研究をつづけたのである。明治の義人田中正造翁が、その晩年原田勘七郎氏に寄せた書画の一節に「人一人を救へば其愛や世界に及ぶなり」と実に至言である。

真理の追求と理想の向上

文豪はペンを通じて、画伯はキャンバスを通じて、名工は殿堂を通じて、巨匠は諧調を通じて、政治家は指導力を通じて人生の理想を展開した。彼等は我等の思想、我等の感情、我等の行動を向上させた。彼等の存在によって我等の生活はより幸福により有意義になったのである。蓼沼家は蓼沼慈善団一今の三好園を通じて薄幸の人に光明を、乏しき学徒に希望を与へつつ真理の追求と理想の向上に不断の努力を傾倒している。

一にもあの慈善袋、二にもあの慈善袋、三にもあの慈善袋に無限大の感謝を捧げずには居られない。カーライルは言つた。偉人と凡人との差は紙一重である。凡人が語らうとして語らないのを偉人は決然それを語るのだ。凡人が行はんとして行はないのを偉人は猛然それを断行するのだ。あの時代あの場合、蓼沼慈善団を企て、それを創設した蓼沼大人の偉大さを窺ふこと

が出来る。

東洋の太陽と欧米人から尊敬された渋沢栄一氏は、数へきれぬ程肩書を持つていたが、東京市の慈善事業東京市養育院の理事長であることを最高の光栄としていたのである。

与へた求めない

昨年九月八日の夕、国際オリソピック委員会会長ブランドジ氏は、在ローマのアメリカ人秋季大会に於いて、アメリカ人の甘い生活を戒め、今ではコーカソラ飲料会社々長におさまつてゐる元米国郵政長官や政治家を前にして、「政治家はスポーツ精神によつて、与へよ求むるな」と喝破して、ローマ大会が終ると急いでシカゴで皇太子殿下と皇太子妃殿下を歓迎したのである。第十八回東京大会には会長として来京するのは言うまでもない。

蓼沼大人は明治三十四年、衆望を荷うて田中正造翁の後継者として衆議院の席を占めた与へて求めない政治家であつた。大人の厳然たる存在は、さながら一枝の梅花を院内に飾りたるが如く、周囲を美化し浄化したのである。之を裏書するのは、田中翁が明治四十一年四月「我が安蘇の恩人及び同志に答う」の一節に蓼沼文書氏を挙げんとせよ蓼沼氏は無慾なり人に信を買ふ人にあらず、信の価に市価あり、実価あり、信の押売は市価なり実価にあらず。

明治三十九年十一月二十六日、翁は原田勘七郎氏宛、蓼沼氏は近頃よく小生の一身上につき蔭にても世話をなきると。然り蔭にて能く人の面倒を見た。「与へた求めない政治家」は我等の蓼沼慈善団の創設者でもあつた。

美花たらんより雑草を選んだ

衆議院議員をやめてから、輝かしい公職を望まず、花々しい生活をさけ、恵まれざる者の友として、乏しい学徒の庇護者として潜進黙歩、今の言葉の社会福祉の事業に専念し、時々我等三好園の被恩触者を鶴見の花月園や其の他の遊園地に招き、楽しい一日を過ごし興に乗じて十八番の「とは云うものの」を一席演じて錦上更に愛嬌を添ふるなど我等に歓喜と快樂を満喫させたのである。

人には各使命がある。天よりか、親よりか、周囲の人よりか、いづれにしても蓼沼大人の如く使命の総てを完全になし遂げた人が果して幾人かある。そして蓼沼大人は世にも幸福の人であつた。幸福—それは宗教家の説く所哲学者の語る所、恵まれぬ者の夢みる所、世人の総てが求むる所である。而して真の幸福とは人を博く愛し人に能く奉仕し得ることであると思う。大人は蓼沼家伝統の慈善博愛を生命とし、遺憾なく世に奉仕したから最も幸福な人であつたと呼びたい。そして美花とたらんより雑草たるを選んだ偉人を尊敬すべきである。

永遠の遺業無窮の進展

蓼沼大人逝いて茲に四十二年、追悼の念愈切に、哀慕の涙新たである。大人は私を諭して収入は暮しの外、衛生、旅行、衣服、寄附等種別を明かに貯蓄せよ。特に帰朝早々風邪をひきやすかつたので、健康に就いては最も厳肅に最も懇切に注意されました。御蔭で生活にも健康にも恵まれ、欧米の旅行も四たび。今年八十八才の高齡であるが、昨年は東京オリソピック大会組織委員会よりローマに使い、曾遊の各地を歴訪し、今年も或る要件で渡米することになつて

居ります。大人にこれ等の事柄を語るよすがもないのは寂しい極であります。

ひそかに喜ぶ、塵より来るもの塵に帰するも霊より来たるものは霊に帰する。大人の貴い肉体は滅びても、その思想、その感化、その業績は不朽の光を以て現代を照らし、後代を潤した導くのは必然である。冀くは大人の英霊我等の衷に生きて、其の心を以て我等の心とし、其の志を以て我等の志とし、偉大な創設者の遺業を続けるに極めて堅実にして勇敢ならしめんことを。幸に本三好園の理事長は蓼沼家の伝統を継承し、家業に精励、三好園の偉業に精進而して世人の信望を一身にあつめている。また蓼沼家一同並に関係者は皆熱心な三好園信者であり協力者である。

茲に財団法人三好園創立五十周年を記念し慶祝し而して無限大の進展を神かけて祈る次第である。

附記す。財団法人三好園の前身蓼沼慈善団は蓼沼家創業一百年と智恵子刀自八十八歳の祝賀を記念として創設されたのである。私が八十八歳でその五十周年記念誌に寄稿するのは深い因縁であると思はれる。想起す。私が米国々務長官ダレスの祖父からコロムビアソ大学の卒業証を拝受し、其の孫ダレス長官に東京都第壱号名誉都民証を伝贈したことを奇縁として、ニューヨーク・タイムズ等の紙上に吹聴したのを。